

令和6年度（2024年度）事業報告について

【法人本部】

1. 本部事業報告

2024～2025 年度の2か年の計画で大規模修繕工事を行っています。大阪市特別養護老人ホーム等施設の長寿命化を目的とした大規模修繕補助金を活用し、2024 年1期工事として、外壁防水工事(低層階)、ダムウェター改修工事、コーチェネレーション工事が終了しております。第1期工事費用合計として 26,462,546 円でしたが、2024 年度補助金として 7,311,000 円が支給される予定です。引き続き第2期工事として、外壁防水工事、エレベーター改修工事、自動火災報知設備工事、高圧ケーブル改修工事を安全に配慮し実施を予定しております。

職員確保については、採用人数は増えています。2023 年度の 16 人（正規 4 人・非常勤 11 人）から 2024 年度は 25 人（正規 11 人・非常勤 14 人）と約 1.5 倍となりました。これは法人本部の職員増員（1 人→2 人）、新たな媒体の活用によるものと考えます。1 月からはじめた媒体は、自社ホームページでの求人情報を充実するのと同時に、大手求人媒体への掲載を可能にするもので、従来からの、人材紹介等に依存せず自社の採用力を高める方向で進めております。但し、「新卒・介護職・正規職員」の採用は困難を極めており、とくに大卒者の入職は 2023 年度以降ありません。次年度からは、より課題を明確化し、人財確保や定着について検討する新たな委員会を立ち上げ、法人をあげて取り組む気運を高めてまいります。

2020 年度からはじめた「SUT (Skill Up Target) 制度」という当会独自の研修制度が 5 年目となり、職員一人ひとりの成長を見守っていく仕組みが定着しつつあります。2025 年度はさらにプラスアップを図り、質の高いサービスが提供できる人財を育ててまいります。

【施設部】

2. 特別養護老人ホーム白寿苑

2024 年度の特別養護老人ホーム白寿苑におきましては、入所者平均年齢は 88.5 歳、平均要介護度は 3.9、平均在所期間は 47.8 カ月であります。医療機関への入院者実人数は 38 名。死亡退所者数は 24 名、医療依存度が高く療養上の理由から帰苑困難となった退所者は 4 名、住環境が整ったことで希望にて在宅復帰された退所者は 1 名となりました。特養として注力し取り組んでいる看取

り介護については、死亡退所者全体の 83.3%となる 20 名を施設内で看取らせて頂きました。

2024 年 4 月の介護保険法改正で要介護度毎の基本報酬単価が従来型 16~24 単位、ユニット型 18~26 単位増となりました。新設された加算として、医療と介護の連携体制の構築を評価する「協力医療機関連携加算」、高齢者施設における感染症対応力の向上に対しての体制構築への評価として「高齢者施設等感染対策向上加算」、介護現場における生産性の向上を目指す体制について評価する「生産性向上推進体制加算」を新たに算定しております。

高齢者虐待によるやむを得ない措置による入所は 1 件受入れしました。今後も災害による避難者や虐待保護の措置入所ケース、いっそう高まる看取り介護、認知症ケアなど、より多様化していくニーズに応えていくためには、介護サービスにおける生産性向上が必要であり、また各職種のスタッフ一人ひとりのスキルを高める取組みと業務内容の見直しを行うことで質の高い介護サービスを提供していくことが可能になると考えます。入所者、ご家族から安心と信頼頂けるサービスを提供できるよう努めて参ります。

今後も感染症対策を十分に徹底し、新規入所を一層進め、稼働向上に努めて参ります。

3. 短期入所生活介護

2024 年 4 月に介護保険制度改定に伴い要介護度毎の基本報酬単価が 5~10 単位増となり、8 月からは昨今の光熱水費の高騰から居住費の基準費用額が 1 日当たり 60 円引き上げられました。

新設された看取り期の利用者に対してのサービス提供を行った場合に評価する「看取り連携体制加算」や口腔管理に関わる連携強化を評価する「口腔連携強化加算」は期間中の対象ケースがなく算定できません。

前年度の月平均稼働率は 63.3%に対して今年度は 62%と前年同様でした。

利用者全体に占める中重度利用者（要介護 3 以上）の割合は、前年度 80.6% に対して 78%と同様となっております。

大阪市認知症等高齢者緊急ショートステイ事業居室確保業務については、前年度より 2 件減少し 6 名、延べ 87 日間の緊急受入れを行いました。

今後も感染症対策には十分に注意し、新規利用者及び定期的利用者の確保と緊急利用ケースなど様々なニーズへの柔軟な受入れを行い、稼働向上に努めてまいります。

4. ケアハウス白寿苑

2025 年 4 月 1 日現在、入居者数 31 名です。平均年齢は 84.7 歳、要介護認定

を受けている入居者は 25 名です（その内、要支援…9 名、要介護 1 …6 名、要介護 2 …8 名、要介護 3 …1 名、要介護 4 …1 名です）。

- ① 行事、サークル活動については、新型コロナウイルス感染予防の継続のため、飲食を伴うイベントの開催は中止しました。大阪市の移動図書館（まちかど号）の利用、コーヒールームサービスは、毎月実施しました。ボランティアの協力があり、歌の集いを不定期で行いました。希望者のみですが、大阪市からの招待で「木下大サーカス」の観覧、造幣局の観桜会に参加しました。
- ② 個別の援助計画を作成し、実施しています。
- ③ 入居希望者の面談・見学・体験入所は、感染予防しながら行いました。

5. 白寿会診療所

(1) 感染対策

2024 年度の感染症対策としては、新型コロナが 5 類以降後の日常生活上の注意点について理解してもらうことと、時期問わず感染拡大しているノロウイルスによる感染性胃腸炎やインフルエンザによる感染症への感染対策を実施してもらうこととなりました。

現場では、感染症は発症しても手洗いや PPE などの理解が実践につながり、感染拡大によるクラスターの発生はありませんでした。

(2) 多職種連携

2024 年度後半は、理学療法士と連携をとり、不定期ではありますが特別養護老人ホームフロアにおいて「ダンベル体操」を再開できました。入居者および利用者の反応も記録に残していくことによって、介護職員との情報の共有とし、個別ケアの質の向上につなげる努力を続けています。

【在宅部】

2024 年度介護保険制度改革に伴い、各部署にて加算、体制を整えサービス提供を行いました。在宅部サービス事業課については、協力医療連携加算による医療体制、感染対策の強化を図り、また、生産性向上加算を取得することにより業務効率を向上、LIFE 加算に対する ADL 維持評価などケアの質の向上に努めています。相談支援課に関しては、地域共生社会の中核として、様々な連携や交流の場を提供することにより、相談実績の増につながっています。相談実績が増えることにより、収益も増額しておりますが、在宅部全体では一部職員数の減により減収となる事業があり、前年度実績からの減収となっております。

収益確保のために、人員の確保、ニーズに対応できるよう職員体制の再構築を図ることが必要と考えます。

●介護サービス事業課

6. デイサービスセンター白寿苑

◆一般デイサービス

2024年度は、軽介護度（要支援者）の利用者が増加する結果となりました。そのため、顧客単位数の低下や利用時間の短縮者が増えた影響もあり、前年度収益の91.9%と減収になりました。取り組みの点では、感染症対策委員会からの感染対策が緩和されたことで、機能訓練を目的とした外出や調理教室を開催することができました。特に調理教室は好評で、自宅での家事支援にも繋げることができました。利用者の座席位置ですが、テーブルを囲って座るように戻しました。利用者から「話がしやすくていいわ」と好評でした。

次年度は、引き続き「ADL維持加算」を取得し、利用者情報の取得に力を入れていき、長時間利用していただけるような取り組みを企画していくと考えております。そして、現在取得している加算に関しては、定期的な研修の機会を設けることになりましたので、非常勤職員にも参加する機会を作り、現場にフィードバックできるようなシステムを構築できるよう努めています。

介護サービス費請求額（利用者負担額除く）

	通所介護	介護予防型 通所サービス	短時間型 通所サービス
2022年度	¥60,884,677	¥1,836,824	¥0
2023年度	¥59,767,410	¥2,591,088	¥0
2024年度	¥53,834,708	¥3,496,724	¥0
前年度差額	- ¥5,932,702	+¥905,636	¥0
合計			- ¥5,027,066

◆デイサービスぽかぽか

2024年度は、デイサービスと同様に利用時間の短縮割合が増加しましたが、契約者増加の影響もあり、前年度収益の105%と増収になりました。取り組みでは「寺子屋教室」や「壁画作成サークル」を継続的に行いました。そして、「料理教室」では昼食作りを中心に再開し、「手続き記憶」が想起され、IADLの向上につながっています。

地域運営推進会議では、多数の地域関係者等が参加して下さり、貴重なご意

見をお聞きすることができました。次年度も4月、10月を中心に関催し地域の方々のご意見をいただければと思っております。2024年度は介護保険改正で新たに「ADL維持加算」を取得して参ります。職員に関しては、認知症ケアを中心とした研修会を開催し、ケアの力を向上させていきます。

介護サービス費請求額（利用者負担額除く）

	認知症対応型 通所介護	介護予防認知症対応型 通所介護
2022年度	¥31,204,099	¥0
2023年度	¥31,166,726	¥0
2024年度	¥32,751,797	¥0
前年度差額	¥1,585,071	¥0
合計		+¥1,585,071

7. ヘルパーステーション白寿苑

全体でみるケース数や訪問回数は昨年より減少しておりますが、職員一人当たりの稼働率は安定しております。利用者の生活習慣や価値観を尊重し、それぞれの困りごとに寄り添って、問題を一つ一つ解きほぐしていく支援を心掛けました。ヘルパーとの信頼関係の構築を心掛け、利用者の健康状態を観察して異常の早期発見に努め、本人のニーズ、家族のニーズを合わせた個々の支援方法を各関係機関と相談し、職員間での情報交換を密に行い、介護技術の向上に努めます。

- ・介護保険サービス（逝去3名、入所4名、新規4件、自費サービス新規3件）
月平均 利用者数17名 訪問回数103回 訪問時間122時間

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0 %	13 %	36 %	36 %	13 %	2 %	0 %

- ・障がい者支援法サービス（新規2名）

月平均 利用者数13名 訪問回数88回 訪問時間166時間

障がい種別	身体障がい	知的障がい	精神障がい	重度障がい	視覚障がい
割 合	26 %	14 %	40 %	2 %	18 %

支援内容	身体介護	家事援助	通院介助 身体伴う	通院介助 身体伴わない	同行援護	移動支援	重度訪問
割合	6 %	30 %	15 %	1 %	22 %	14 %	12 %

8. 有料老人ホームつむぎ苑

2024年度のつむぎ苑の実績といたしましては、平均稼働率は73%で前年度の83%と比較すると10%減となり、収益総額では約1,100万円の減収となっております。平均介護度は2.6と上昇傾向にあり、重度化が進んでいます。平均年齢は94歳。高齢化が進み、通院から往診へと切り替えるご利用者が増加したことから、受診の同行等にかかる自費サービス費も減収となっています。

平均介護度が2.6と上昇、介護サービス費は稼働率の著しい低下にも関わらず約70万の增收となっております。ご利用者の獲得は急務ですが、やみくもに重度のご利用者を獲得すれば、現場職員にかかる負担が増大し離職の原因につながることも危惧される現状です。平均介護度と介護職員の配置のバランスを考えながら、稼働率の回復に取り組みたいと考えております。

2025年度も山積する課題に真摯に向き合い、ご利用者に満足していただける施設づくりに努めてまいります。

請求額	総額	介護サービス費	自費サービス
2023年度	¥119,450,679	¥66,728,072	¥110,110
2024年度	¥108,557,233	¥67,458,148	¥66,066

●相談支援課

9. 玉出地域包括支援センター

◆地域支援事業

【玉出地域包括支援センター実績】

総合相談件数 7,773件（昨年6,692件）、

権利擁護虐待通報件数4件（内、虐待事例として対応2件）

介護支援専門員支援からの相談1,249件（昨年1,095件）

総合相談の延べ件数は約1000件以上の増加となりました。相談実人員は840件。相談の内容が多岐にわたることから、本人、家族からの相談のみならず、行政関係（生活保護ケースワーカー、生活困窮者支援、子育て関連、司法関連など）からの相談、連携の事例が増えています。

地域活動については、南津守の市営住宅の自治会との連携を強め、生活体制整備事業、見守り相談室、障がい者基幹相談支援センターとの新たな活動拠点を作ることができました。

【認知症強化型地域包括支援センター実績】

区内地域包括支援センター地域ケア会議後方支援・・10件

認知症推進代表者会議、実務者会議・・合計 10回

認知症対応力向上研修 1回

認知症啓発イベントは、講演会や体験型の企画（百歳体操、ボッチャ、Eスポーツ）を盛り込みました。昨年より参加者（約150名）は減少したものの、地域の認知症デイサービス、障がい事業所のご利用者さまが体験コーナーを楽しまれる様子もあり、当事者参加をいかに実現するか。次年度企画への大きな足掛かりとなりました。

◆介護予防支援事業

介護予防サービスは、利用者総数 5447件（昨年度 5819件）、

地域包括支援センター延べ実績 370件（昨年度 395件）

一部委託 5077件（昨年 5424件）で対応しています。

年度末にかけて件数が微減しているのは、介護保険法改正に伴い介護予防指定事業所が圏域内に1件できたことから、一部委託件数の減少によるものと考えています。

10. 認知症初期集中支援推進事業（にしなりオレンジチーム）

（1）相談実績数

個別支援件数は24件、相談対応数は93件ありました。これらを合わせて総数は117件でした。地区別で見ますと、萩之茶屋地区・玉出地区が5件、次いで天下茶屋地区が4件となっています。月平均は2件です。

相談対応数は毎月コンスタントにあり、個別支援に移行した事例もありました。相談経路では包括が最も多く全体の約4割、次いで家族、ランチ・CM、病院の順となりました。

件数的には前年度を下回りましたが、過去の個別支援ケースからの再相談が増えています。個別支援終了後にも当事者家族や関係機関からの十分な傾聴、課題整理、方向性検討といったニーズを受け止め、伴走型の支援者として、継続した役割を担っています。

（2）広報啓発活動

地域活動等、ホームページの定期更新、法人SNSでの情報発信等、全体で94回の広報を行いました。インターネット検索をした家族からの相談や問い合わせも一定数受けております。

認知症基本法の施行に因み、9月の認知症月間では福祉局主催の当事者等の声

の展示企画に寄せて、区内の当事者・家族・関係者にご協力いただきました。後述の区民センターでの啓発イベントでも、展示いたしました。加えて、西成図書館との連携企画も継続実施しています。

西成区オレンジリングの会関連では、特に今年度は区内の警備会社より依頼があり、頻回な認知症サポーター養成講座の開催に協力しました。

(3) ネットワーク構築

『ほっと！ネット西成』連絡会の事務局として、実務者級連絡会議（兼当チーム関係者会議）をはじめ、認知症対応力向上研修を実施しました。区民向け啓発イベントでは今回も講演会と各種体験コーナーを融合した企画で実施しましたが、区民センターにてホールに加えて会議室も使用し、認知症予防について頭と身体で感じられる企画で実施しました。

個別支援や地域ケア会議では、認知症に関する専門的なアセスメント、医師の説明に基づいた支援の方向性等に関して提案や助言を行っています。

11. ライフサポートセンター白寿苑

特定事業所として適切なケアマネジメント業務と適正な運営を継続しています。ケアマネジャー質向上においても、それぞれ個人目標を設定し研修等に参加しています。事業所としても日々のケアマネジメントを疎かにせず運営基準違反や減算にならないように運営指導は継続しています。

事業所加算要件に「他法人が運営する居宅介護支援事業所との研修」が含まれており、地域のケアマネジャーとの勉強会や交流の機会を持つ必要性が生じています。

2024年度も地域のケアマネジャーと小単位で介護保険、制度、事例検討会、地域の情報等共有をしながら勉強会を3回ほど開催しています。

利用者相談については地域包括支援センター、病院、地域利用者からが主ですが、閉鎖（事業撤退）をする事業所等も増えており受け皿になっています。今後も増えてくると考えます。地域の居宅介護支援事業所と協力ができる範囲で受け入れを行います。また、短期間で施設入所なども増えており、地域の施設系の受け入れも充実してきていると思われます。当然の事ですが引き続き、ケースを受け続ける必要があるのでその都度ケース獲得をしてまいります。

	第1期	第2期	第3期	第4期	合計
総件数	414(373)	413(369)	429(395)	430(400)	1686(1537)
介護件数	316(286)	314(276)	321(231)	322(231)	1273(1084)
予防件数	98(87)	99(93)	108(104)	108(109)	413(109)

請求額	¥6,154,634 (¥5,527,268)	¥6,127,658 (¥5,326,978)	¥6,342,828 (¥5,641,975)	¥6,401,791 (¥5,718,665)	¥25,026,911 (¥22,214,886)
前期比較		99.6%	103.5%	100.9%	

(カッコ内は令和5年度)

1 2. 相談支援事業はなめ

(1) 事業内容について

2024年度は、事業開始後初めての運営指導がありました。大きな指導はなく適切に運営できていると評価いただきました。

収益向上の取り組みとしては、計画通り相談支援専門員従事者現任研修の受講と「行動障害支援体制加算」の算定を開始しました。また、「精神障がい者支援体制加算」は継続して算定しています。

高齢者サービスとの共生を目指す取り組みとしては、「あいサポート研修」の周知を行っています。また、介護保険へのスムーズな移行のため居宅介護支援事業所等と連携しています。

(2) 実績について

利用登録者数は、月平均42.6名です。請求件数は月平均33.2名と前年度より増加していますが、目標の35件には達しませんでした。「利用者の状況確認や支援内容の調整等を手厚く実施したことを評価する為の加算」は75件で、前年度の53パーセント増と大幅に増やすことができました。2024年度報酬改定で各種加算が拡充されたこともあり収益は前年度の112.8パーセントとなっております。

廃止件数は5件です。新規登録件数は6件で、利用者本人からの依頼が増えています。相談支援事業所が急激に増えており新規ケース獲得には、地域関係機関との連携強化が必要となります。引き続き会議や行事に参加し地域関係機関との連携強化を図ってまいります。

【白寿会研修センター】

1 3. 咳痰吸引等研修事業

当事業は2013年度より開始し、近隣の社会福祉法人ジー・ケー社会貢献会、特別養護老人ホーム山愛の三者が協働して実施しております。

2024年度も、2022年度から始めた「オンデマンド配信＋スクーリング方式」で実施しました。基本研修は2024年6月～11月に実施。22名が参加しました。

「現場職員による現場職員のための喀痰吸引等研修」として、ゆとりのある期間設定を行い、パソコン、スマートフォン、タブレットがあれば「いつでも、

どこでも学べる」と好評でした。スクーリングについても、指導看護師陣の丁寧な指導により大変充実したものになりました。

なお、これまで 14 回の参加実績は、基本研修参加者が計 281 名、そのうち実地研修も含めた全課程修了者が 234 名、基本研修修了後実地研修受講中が 32 名（2025 年 3 月末現在）、また基本研修免除研修への申込は 5 名、修了者も 5 名となっています。